

第2四半期のAIGに帰属する純利益は31億ドル、希薄化後1株当たり利益は2.10ドルと公表

- 第2四半期のAIGに帰属する税引き後営業利益は18億ドル、希薄化後1株当たりでは1.25ドル
- 2014年第2四半期の保険事業の税引き前営業利益は、27億ドル
- AerCap Holdings N.V.へのILFC売却が完了、合計対価は約76億ドル
- 自社株買い戻し枠20億ドルが追加承認され、2014年第2四半期には約11億ドルの株式を買い戻し
- 2014年第2四半期に保険子会社が親会社AIGに支払った現金配当および借入返済は計16億ドル

2014年8月4日（ニューヨーク発）：アメリカン・インターナショナル・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所銘柄：AIG）（「AIG」）は、本日、2014年第2四半期のAIGに帰属する純利益が31億ドルになったことを公表しました。これに対して、2013年第2四半期は27億ドルでした。2014年第2四半期のAIGに帰属する税引き後営業利益は18億ドルとなり、これに対して2013年第2四半期は17億ドルでした。

2014年第2四半期のAIGに帰属する希薄化後1株当たり利益は2.10ドルとなり、これに対して2013年第2四半期は1.84ドルでした。2014年第2四半期の純利益には、14億ドルの税引き後ILFC売却益、希薄化後1株当たりでは0.96ドルの利益が含まれています。2014年第2四半期のAIGに帰属する希薄化後1株当たり税引き後営業利益は1.25ドルとなり、これに対して2013年第2四半期は1.12ドルでした。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシェは、以下のように述べました。「堅調な第2四半期決算を達成することができました。当社の事業全般が継続的な秩序と回復力を示し、中核となる保険事業の業績改善を重視している当社の姿勢が浮き彫りになりました。私がAIG社長兼CEOを務める最後の期である第2四半期は、次の2つの重要な事象があったことにより、色々な意味で一区切りついたと考えています。第1はAIGの非中核事業の最後の譲渡となったILFCのAerCapへの譲渡が完了したことで、第2は私の後任として、次期AIG社長兼CEOにピーター・ハンコックが選任されたことです。

業績に関しては、喜ばしいことに、プロパティ・カジュアリティ、ライフ・アンド・リタイヤメント、およびモーゲージ保証保険が揃って堅調な結果を示しました。当社の業績は継続的な進展を実証するもので、第2四半期には資本管理にもかなり積極的に取り組みました。」

ベンモシェ社長兼CEOは以下のように締めくくりました。「将来に関しては、ハンコック新CEOが一層持続可能な繁栄に今後AIGを導いてくれるものと確信しています。新CEOの指揮の下、AIGは引き続き誠実に、かつ投資家、監督当局、地域社会を含めた全てのステークホルダーの予想を上回る成果をあげることに強い責任感を持って、中核的な戦略および優先課題を進めていくに相違ありません。」

資本および流動性

- 2014年6月30日現在、AIGの株主資本は合計で1,082億ドルとなりました。
- 1株当たりブック・バリューは前年同期比15%増の75.71ドルになりました。その他の包括利益累計額（AOCI）を除く1株当たりブック・バリューは、10%増の67.65ドルでした。

- 2014年第2四半期には、AIG普通株式1,810万株を計約11億ドルの購入価格で買い戻しました。これには、3億ドルの株式買戻契約に準拠した初回受渡分の約380万株も含まれています。さらに約170万株がAIGに受け渡されて2014年7月に決済されました。引き続き約15億ドルの買い戻しが認められています。
- 各種保険事業部門が2014年第2四半期に親会社AIGに支払った納税分損額は5.1億ドルで、年初来累計は7.81億ドルにのびます。ただし、これらの金額は将来払い戻される予定です。
- 2014年第2四半期には、直接投資事業(DIB)に割り当てられた資金を原資にして、2015年満期、利率3.000%の債券のうち元本合計7.5億ドルを繰上償還し、DIBの債務を削減しました。
- 2014年7月には、どちらもDIBに割り当てられた資金を原資にして、2016年満期、利率4.875%の債券のうち元本合計7.9億ドル、および2017年満期、利率3.800%の債券のうち元本合計12.5億ドルを繰上償還して、DIBの債務をさらに約20億ドル削減しました。
- 2014年7月には、親会社AIGが発行した、もしくは保証を供与した表面利率が高いハイブリッド債および優先債を、公開買付により計25億ドルの購入価格で買い戻しました。その一方、2019年満期、利率2.300%の債券10億ドル、および2044年満期、利率4.500%の債券15億ドルを発行しました。
- 親会社AIGの流動資金は、前期末の156億ドルから2014年6月30日現在は185億ドルに増加しました。そのうち141億ドルは、現金、短期投資、および抵当権が設定されていない満期固定証券でした。

税引き後営業利益
(単位：百万米ドル)

	6月30日までの3ヶ月間	
	2014年	2013年
税引き前営業利益(損失)		
保険事業		
AIGプロパティ・カジュアリティ	\$ 1,355	\$ 1,086
AIGライフ・アンド・リタイヤメント	1,180	1,151
モーゲージ保証保険	210	73
保険事業合計	2,745	2,310
その他の事業(モーゲージ保証保険を除く)		
直接投資	313	591
グローバル・キャピタル・マーケット	245	175
AerCapの税引き前営業利益における持分	53	-
支払利息	(327)	(353)
全社費用、純額	(282)	(253)
その他、純額	(13)	(35)
その他の事業合計(モーゲージ保証保険を除く)	(11)	125
統合、消去、その他修正	10	33
税引き前営業利益	2,744	2,468
法人税経費	(918)	(786)
非支配的持分(正味実現キャピタル(ゲイン)ロスを除く)	7	(27)
AIGに帰属する税引き後営業利益	\$ 1,833	\$ 1,655
AIGに帰属する希薄化後普通株式1株当たり	\$ 1.25	\$ 1.12
税引き後営業利益		
AIGに帰属する税引き後営業利益に対する実効税率	33.4 %	31.8 %

別途示されていなければ、以下の各事業セグメントにおける比較はいずれも2013年第2四半期に対するものです。

AIG プロパティ・カジュアリティ

(単位：百万米ドル)

	6月30日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
正味収入保険料	\$ 9,213	\$ 9,263	(1) %
正味既経過保険料	8,531	8,347	2
事業利益 (損失)	101	(223)	NM
正味投資利益	1,254	1,309	(4)
税引き前営業利益	\$ 1,355	\$ 1,086	25 %
引受に関する比率：			
損害率	64.6	68.0	(3.4) ポイント
取得費率	19.4	20.0	(0.6)
一般営業費率	14.8	14.6	0.2
コンバインド・レシオ	98.8	102.6	(3.8)
保険事故年度の調整済み損害率	62.7	61.9	0.8
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	96.9	96.5	0.4
深刻な損失	2.3	0.5	1.8 ポイント

AIG プロパティ・カジュアリティの税引き前営業利益は 14 億ドルに増加しました。これは事業損益が改善したためですが、その効果は、オルタナティブ投資利益の減少、および公正価値オプションで会計処理される投資に係る利益の減少に起因する正味投資利益の減少によって一部相殺されました。AIG の継続的な資本管理重視の一環として、AIG プロパティ・カジュアリティは 2014 年第 2 四半期に親会社 AIG に 7.01 億ドルの現金配当を分配しました。

2014 年第 2 四半期のコンバインド・レシオは 98.8 となり、前年同期から 3.8 ポイント減少しました。異常災害損失は、前年同期が 3.16 億ドルであったのに対して、1.39 億ドルとなりました。保険料の調整を含めると、期首時点支払備金（見積り額）の当期末状況（ラン・オフ・リザルト）は正味 1,400 万ドルの戻入れであったのに対し、前年同期は正味 1.54 億ドルの繰入れでした。異常災害損失の減少と支払備金戻入れの効果は、コマーシャル・インシュアランス事業の深刻な損失が前年同期の 3,800 万ドルと比して 1.93 億ドル増加したことで、一部相殺されました。2014 保険事故年度第 2 四半期の調整済み損害率は 0.8 ポイント増の 62.7 になりました。これはコマーシャル・インシュアランス事業の深刻な損失が増加したことによるものですが、その影響は、コンシューマー・インシュアランス事業の損害が改善したことで一部相殺されました。2014 保険事故年度第 2 四半期の調整済みコンバインド・レシオも、かかる深刻な損失の影響が主な原因で、前年同期を若干上回りました。

為替の影響を除くと、2014 年第 2 四半期の正味収入保険料は、前年同期を若干上回りました。各種商品や販売チャネルを通じた成長により、コンシューマー・インシュアランス事業の正味収入保険料が 4%増加したことを反映したものです。ただしその増加効果は、競争激化による既契約の継続率の低下と新契約の減少に起因するコマーシャル・インシュアランス事業の 1%減少によって一部相殺されました。

コマーシャル・インシュアランス事業の引受

(単位：百万米ドル)

	6月30日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
正味収入保険料	\$ 5,816	\$ 5,876	(1) %
正味既経過保険料	5,265	5,073	4
事業利益 (損失)	\$ 239	\$ (88)	NM %
引受に関する比率：			
損害率	67.7	72.6	(4.9) ポイント
取得費率	15.4	16.3	(0.9)
一般営業費率	12.3	12.8	(0.5)
コンバインド・レシオ	95.4	101.7	(6.3)
保険事故年度の調整済み損害率	66.4	62.2	4.2
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	94.1	91.3	2.8 ポイント

コマーシャル・インシュアランス事業のコンバインド・レシオは、6.3ポイント減の95.4になりました。その主な原因は、支払備金の当期末戻入れと異常災害損失の減少にあります。保険料の調整を含めると、期首時点支払備金（見積り額）の当期末状況（ラン・オフ・リザルト）は正味6,300万ドルの戻入れであったのに対し、前年同期は正味1.87億ドルの繰入れでした。異常災害損失は、前年同期の3.07億ドルに対し2014年第2四半期は1.21億ドルになりました。2014保険事故年度第2四半期の調整済み損害率は、4.2ポイント増の66.4になりました。これは、財物保険と特殊リスク向け保険における深刻な損失の増加を反映したものです。2014年第2四半期の取得費率は0.9ポイント減の15.4になりました。主な原因は保険料税および支払保証基金等の評価額の減少にあります。その効果は、ビジネス・ミックスの変更に起因する手数料率の上昇によって一部相殺されました。一般営業費率は0.5ポイント減の12.3になりました。これは、ドル建ての一般営業費がほぼ前年同期並みであったことから、ベースとなる既経過保険料の値が高くなったのが主な原因でした。

コンシューマー・インシュアランス事業の引受

(単位：百万米ドル)

	6月30日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
正味収入保険料	\$ 3,407	\$ 3,390	1 %
正味既経過保険料	3,253	3,255	-
事業利益 (損失)	\$ 68	\$ (1)	NM %
引受に関する比率：			
損害率	55.8	58.9	(3.1) ポイント
取得費率	25.9	25.9	-
一般営業費率	16.3	15.3	1.0
コンバインド・レシオ	98.0	100.1	(2.1)
保険事故年度の調整済み損害率	55.7	60.2	(4.5)
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	97.9	101.4	(3.5) ポイント

コンシューマー・インシュアランス事業のコンバインド・レシオは2.1ポイント減の98.0になりました。2014保険事故年度第2四半期の損害が減少したおかげですが、その効果は、期首時点支払備金（見積り額）の当期末状況（ラン・オフ・リザルト）における正味戻入額の減少によって一部相殺されました。2014保険事故年度第2四半期の調整済み損害率は、4.5ポイント減の55.7になりました。これは、日本の自動車保険事業の料率と損害の改善、および米国の保証事業の料率と補償内容の変更によるものです。一般営業費率は、1.0ポイント増の16.3になりました。その主な原因は、AIGプロパティ・カジュアリティの日本法人に関して現在も進行中の統合準備に伴い、インフラ費用が増加したためです。

AIG ライフ・アンド・リタイヤメント

(単位：百万米ドル)

	6月30日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
収入保険料および預かり資産	\$ 7,360	\$ 6,765	9 %
正味投資利益	2,561	2,637	(3)
税引き前営業利益			
リテール・セグメント	684	670	2
機関投資家セグメント	496	481	3
税引き前営業利益合計	1,180	1,151	3
運用資産	\$ 332,812	\$ 293,665	13 %

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの2014年第2四半期の税引き前営業利益は12億ドルでした。これは、リテール・セグメントと機関投資家セグメント双方の税引き前営業利益が前年同期を上回るなど、AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの多様な契約にわたる一貫した力強い業績を反映したものです。これらの好業績は運用資産の拡大に伴う手数料収入の増加によるものですが、その効果は、前年同期にオルタナティブ投資が高い利益をあげた反動で今期は投資利益が増加を記録できなかったことにより一部相殺されました。AIG ライフ・アンド・リタイヤメントは、引き続き規律に則った新契約の料率設定、金利敏感型契約の更新保証利率の積極的管理、保証利率が比較的高い既契約のランオフ化（新契約は受け付けず既契約の維持管理のみを行う）の恩恵を享受しました。かかる恩恵が相まって、持続的な低金利環境における投資利回り低下圧力も一部軽減されました。

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの2014年第2四半期の正味投資利益は、前年同期比3%減の26億ドルになりました。その主な原因は、ヘッジファンドを含め、オルタナティブ投資利益が前年同期は高かった反動で、今期は1.84億ドル減少したことにあります。ポートフォリオの基礎利回りは、前年同期の5.35%から5.17%に低下しました。これは、商業用モーゲージ・ローンと仕組証券が前年同期に高い利益を獲得した反動、およびキャピタル・ロス繰越額と相殺するため2013年に投資を売却した代金を再投資した影響を含め、低金利環境が新規資金の利回りに及ぼした影響によるものです。定額年金およびグループ・リタイヤメントの基礎スプレッドは、前年同期比で縮小しました。こちらは基礎利回り低下の影響によるものですが、積極的な保証利率の管理と保証利率が比較的高い既契約のランオフ化によって一部相殺されました。

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの多様な商品ポートフォリオにおける収入保険料および預かり資産は、前年同期比9%増の計74億ドルになりました。この増加は、年金受取総額保障特約付の定年退職者向け商品に対する消費者の需要によって押し上げられて、リタイヤメント・インカム・ソリューションの販売高が引き続き堅調で、前年同期比15%増の26億ドルに達したことによるものです。定額年金の収入保険料および預かり資産は、前年同期の3.55億ドルから11億ドルへと大幅に拡大しました。これは、市場金利が依然として歴史的な低水準にとどまりつつも、前年同期以降上昇していることを反映したものです。

運用資産は13%増の3,328億ドルになりました。これには、リタイヤメント・インカム・ソリューション事業や個人向けミューチュアルファンドの各種商品に対する旺盛な需要、および低金利と株高による投資資産、ミューチュアルファンド、変額年金の預かり資産残高の評価額上昇を受けて、過去12ヶ月間で正味63億ドルの資金が流入したことも算入されています。またAIGのステーブル・バリュー・ラップ契約の継続的成長は、運用資産を前年同期比で121億ドル増加させました。

リテール・セグメントの税引き前営業利益は6.84億ドルになりました。リテール・セグメントは、変額年金の力強い販売高と資金の純流入の恩恵を享受しました。これに株高効果が加わって、変額年金の預かり資産残高が増加し、手数料収入も増加しました。定額年金の販売は、低金利環境が続く中でも引き続き改善しました。規律に則った料率設定、保証利率の管理、保証利率が比較的高い既契約のランオフ化により、基礎投資利回りの低下が定額年金のスプレッドに及ぼした影響が軽減されました。リテール・セグメントの正味投資利益は、ヘッジファンドの貢献で前年同期にオルタ

ナティブ投資が高い利益をあげた反動で、わずかに減少しました。

機関投資家セグメントの税引き前営業利益は、4.96 億ドルになりました。これは、株高により運用資産が増加したことが主な原因で、グループ・リタイヤメントの手数料収入も拡大したことを反映したものです。機関投資家セグメントの正味投資利益は減少しました。ヘッジファンドの貢献で前年同期のオルタナティブ投資利益が高かった反動が主な原因ですが、コール利益の増加により一部相殺されました。

2014 年第 2 四半期に AIG ライフ・アンド・リタイヤメントが親会社 AIG に支払った現金配当と借入返済は、計 8.66 億ドルでした。

モーゲージ保証保険

(単位：百万米ドル)

	6 月 30 日までの 3 ヶ月間		
	2014 年	2013 年	増減
第一抵当権付国内保険契約の新規引受け	\$ 11,057	\$ 13,817	(20) %
正味収入保険料	249	275	(9)
正味既経過保険料	226	208	9
事業利益	177	40	343
正味投資利益	33	33	-
税引き前営業利益	\$ 210	\$ 73	188 %

ユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) は、前年同期の 7,300 万ドルに対して、2014 年第 2 四半期には 2.1 億ドルの税引き前営業利益を計上しました。これは、正味既経過保険料の増加と、期首時点支払備金 (見積り額) の当期末状況 (ラン・オフ・リザルト) における 8,900 万ドルの戻入に伴う損害減少を反映したものです。第一抵当権付契約に関する期首時点支払備金 (見積り額) の当期末状況 (ラン・オフ・リザルト) における 7,900 万ドルの戻入は、モーゲージの貸し手との和解に伴い、請求棄却の破棄率に関する前提を最新の値にしたことによるものです。

正味収入保険料は 9% 減少して 2.49 億ドルとなりました。国内第一抵当権付保険契約の新規引受け (保険付き融資元本) は、20% 減少して 111 億ドルとなりました。その要因は、借り換え活動による住宅取得向けオリジネーションが減少したことです。新規契約の平均 FICO スコアは 750、平均借入金比率は 92% で高い質を保っていました。

その他の事業

AIG のその他の事業 (モーゲージ保証保険を除く) の 2014 年第 2 四半期の税引き前営業利益は、前年同期の 1.25 億ドルの利益に対して、1,100 万ドルの損失となりました。その一因は、資産価格上昇の鈍化と特定のポジション解消に伴う実現利益の減少により DIB の業績が押し下げられたことにあります。それを一部相殺したのが、特定のポジション解消に伴う実現利益、AIG による AerCap 株式投資の利益、負債性資本の管理による支払利息の減少が奏功して、グローバル・キャピタル・マーケットの税引き前営業利益が改善したことでした。

カンファレンス・コール

AIG は、2014 年 8 月 5 日火曜日午前 8 時 (米東部夏時間) より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト (<http://www.aig.com/>) でリアルタイムで聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

#####

AIG の補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

カンファレンス・コール (カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます)、業績リリース、補足財務情報には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション (ILFC) に対する AIG 持分の現金化 (これには ILFC に対する持分の売却が完了しているかどうか、完了している場合には、かかる売却の時期と最終的な条件が含まれます)、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対する AIG のエクスポージャー、欧州の政府および金融機関に対する AIG のエクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、AIG による配置可能な資本の創出、AIG の株主資本利益率および 1 株当たり利益、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関する AIG の戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略、そして AIG 子会社の収入およびコンパインド・レソなど考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の予測、目標、仮定や見解の値から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、市場環境の変化、天災および人災による異常災害の発生、重要な訴訟、銀行以外のシステム上重要な金融機関、およびグローバルなシステム上重要な保険会社として、AIG が対象となる新たな規制の枠組みの導入時期および適用要件、AIG の投資ポートフォリオにおける集中、格付け機関の動向、損害保険の引受けおよび保険債務に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、ならびに 2014 年 6 月 30 日に終了した四半期に関するフォーム 10-Q による AIG 四半期報告書パート I 項目 2 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析 (MD&A)」)、2014 年 3 月 31 日に終了した四半期に関するフォーム 10-Q による AIG 四半期報告書パート I 項目 2 (「MD&A」)、および 2013 年 12 月 31 日に終了した年度に関するフォーム 10-K による AIG 年次報告書パート I 項目 1A (「リスク要因」) とパート II 項目 7 (「MD&A」) でとりあげられている事項などがあります。AIG は、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、最も良く表し、透明性が高いと考えられる方法で財務状態および業績を示しています。一部の数値には、証券取引委員会の規則および規制による「非 GAAP 型の財務数値」が用いられています。GAAP とは「米国において一般に認められた会計原則」のことです。AIG が表示する非 GAAP 型の財務数値を、他の企業が公表している同様の名称の数値と比較することはできません。本リリース中の関連した表、あるいは AIG のウェブサイト (www.aig.com) の投資家向けセクションで閲覧可能な 2014 年第 2 四半期補足財務情報には、非 GAAP 型の財務数値から規定 G に基づく最も GAAP に類似した数値への調整が示されています。

その他の包括利益 (損失) 累計額 (AOCI) を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、AIG の 1 株当たりの純資産額を示すために用いられています。AOCI を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、売却可能有価証券ポートフォリオの公正価値や外貨換算調整など期間によって大幅に変動することがある非現金項目の影響を除外しているため、投資家にとって有益な指標だと考えます。AOCI を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、AOCI を除く株主資本合計を、発行済み普通株式数で除したものです。

AIG は、継続事業の基本的な収益性と、AIG および事業セグメントのトレンドをより良く理解することができるため、以下の業績指標を用いています。これらによって競合する保険会社との比較がより有意義なものになると考えています。

AIG に帰属する税引き後営業利益 (損失) は、AIG に帰属する純利益 (損失) から以下の項目を除きます。非継続事業の利益 (損失)、事業売却の利益 (損失) (ILFC 売却益、ならびに ILFC 取得に伴い AerCap が負担する特定の取得後費用および関連する税効果を含む)、主に不確実な税務ポジションの変更に関連する従来の税務調整およびその他の税務調整、主に「過去の危機に関する問題」についての訴訟損失引当金 (和解金)、繰延税金評価引当金の (戻入れ) 繰入れ、生前給付債務をヘッジするための AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの満期固定債券の公正価値

の変動（支払利息を除く）、給付積立金と正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連する繰延保険獲得費用（DAC）、獲得事業価値（VOBA）、販売促進資産（SIA）の変動、AIG プロパティ・カジュアリティのその他の（収入）費用-純額、債務消滅（益）損、正味実現キャピタル・（ゲイン）ロス、および正味実現キャピタル・（ゲイン）ロスを除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引。「過去の危機に関する問題」には、2008年9月の流動性危機につながる出来事、ならびにこの結果生じた出来事に関連する有利な、および不利な和解、またかかる法的事項に関連する原告としてAIGが負担した弁護士費用が含まれます。AIGに帰属する純利益のAIGに帰属する税引き後営業利益への調整については、12ページを参照してください。

AIG プロパティ・カジュアリティの税引き前営業利益（損失）には、事業利益（損失）、正味投資利益が含まれますが、正味実現キャピタル（ゲイン）ロス、その他（収入）費用 - 純額および上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金は含まれません。事業利益（損失）は、正味既経過保険料から、請求および請求調整費用、取得費用、一般営業費を差し引いたものです。

AIG プロパティ・カジュアリティは、ほとんどの損害保険会社と同様に、引受の成果を示す指標として損害率、経費率、コンバインド・レシオを用いています。これらの比率は相対的な指標で、正味既経過保険料100ドルに対する請求および請求調整費用と負担するその他引受費用を示しています。コンバインド・レシオが100を下回る場合は事業利益、100を超える場合は事業損失を示します。訴訟活動の程度と同様に、引受環境は国や商品によって異なり、そのすべてがこれらの比率に影響を及ぼします。さらに投資利益、現地税、資本コスト、規制、商品の種類、競争が、料率、その結果、事業利益および関連比率に反映されているように収益性に影響を及ぼします。

AIG プロパティ・カジュアリティの保険事故年度の調整済み損害率、ならびに調整済みコンバインド・レシオはいずれも、異常災害損失、関連する復活保険料、前年の動向、保険料調整の控除、準備金の割引による影響を除外したものです。異常災害損失はほとんどが天候や地震に関する出来事で、AIG プロパティ・カジュアリティへの正味での影響はそれぞれ1,000万ドルを超えました。

AIG ライフ・アンド・リタイアメントの税引き前営業利益（損失）は、税引き前利益（損失）から次の項目を除外したものです。これは、上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金、生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の公正価値の変動（支払利息を除く）、正味実現（利益）損失、給付積立金の変動、正味実現利益（損失）に関連するDAC、VOBA、SIAです。

AIG ライフ・アンド・リタイアメントの収入保険料、預かり資産には、従来型生命保険契約での直接の、および想定される受取額、団体給付契約、生存依存型年金の預かり資産、およびユニバーサル生命保険、投資型年金契約、ミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。

その他の事業の税引き前営業利益（損失）は、税引き前利益（損失）から次の項目を除外したものです。上述の過去の危機に関する問題についての特定の訴訟損失引当金（和解金）、債務消滅（益）損、正味実現キャピタル（ゲイン）ロス、給付積立金と正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連するDAC、VOBA、SIAの変動、航空機リースなどの事業売却の利益（損失）、事業売却の純（利益）損失（ILFC売却益、ならびにILFC取得に伴いAerCapが負担する特定の取得後費用、およびAerCapの法人税における当社持分を含む）。

非継続事業の業績は、これらすべての数値から除外されています。

#####

AIG グループは、世界の保険業界のリーダーであり、130以上の国と地域で顧客にサービスを提供している。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供している。この他、米国においては生命保険事業、リタイアメント・サービスの事業も展開している。持株会社AIG, Inc. はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場している。

AIG, Inc.の追加情報については www.aig.com | YouTube :www.youtube.com/aig | Twitter :@ AIGInsurance | LinkedIn :<http://www.linkedin.com/company/aig>を参照されたい。

AIG とは、AIG, Inc.傘下の全世界の損害保険、生命保険、リタイアメント・サービス事業ならびに一般的な保険事業のマーケティング名である。より詳細な情報については当社のホームページ（www.aig.com）を参照されたい。全ての商品およびサービスはAIG, Inc.傘下の子会社または関連会社により引き受けまたは提供されている。これら商品およびサービスは一部の国では利用できない可能性があり、実際の契約に準拠する。保険以外の商品・サービスは、独立した第三者によって提供されることがある。一部の損害保険の補償については、サープラス・ラインの保険会社によって提供される可能性がある。サープラス・ラインの保険会社は、一般的に米国州政府保証基金に加入しないため、当該基金による保証は行われぬ。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2014年	2013年	増減(%)	2014年	2013年	増減(%)
AIG プロパティ・カジュアリティの事業：						
正味収入保険料	\$ 9,213	\$ 9,263	(0.5) %	\$ 17,547	\$ 17,700	(0.9) %
正味既経過保険料	8,531	8,347	2.2	16,761	16,905	(0.9)
請求および請求調整費用	5,511	5,679	(3.0)	11,032	11,092	(0.5)
取得費用	1,654	1,671	(1.0)	3,293	3,359	(2.0)
一般営業費用	1,265	1,220	3.7	2,432	2,445	(0.5)
事業利益 (損失)	101	(223)	NM	4	9	(55.6)
正味投資利益	1,254	1,309	(4.2)	2,510	2,634	(4.7)
税引き前営業利益	1,355	1,086	24.8	2,514	2,643	(4.9)
正味実現キャピタル・ゲイン	127	109	16.5	269	163	65.0
訴訟和解金	-	3	NM	8	3	166.7
その他の利益 (費用) - 純額	8	7	14.3	8	10	(20.0)
税引き前利益	\$ 1,490	\$ 1,205	23.7	\$ 2,799	\$ 2,819	(0.7)
損害率	64.6	68.0		65.8	65.6	
取得費率	19.4	20.0		19.6	19.9	
一般営業費率	14.8	14.6		14.5	14.5	
コンバインド・レシオ	98.8	102.6		99.9	100.0	
AIG ライフ・アンド・リタイアメントの事業：						
収入保険料の売上	\$ 700	\$ 649	7.9	\$ 1,297	\$ 1,269	2.2
保険証券発行手数料	701	623	12.5	1,393	1,238	12.5
正味投資利益	2,561	2,637	(2.9)	5,378	5,514	(2.5)
その他の利益	498	419	18.9	958	812	18.0
収入合計	4,460	4,328	3.0	9,026	8,833	2.2
給付および費用	3,280	3,177	3.2	6,429	6,288	2.2
税引き前営業利益	1,180	1,151	2.5	2,597	2,545	2.0
訴訟和解金	12	359	(96.7)	42	467	(91.0)
生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の 公正価値の変動、支払利息を除く	54	(69)	NM	130	(98)	NM
給付金積立金の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA	(41)	(1,152)	96.4	(11)	(1,211)	99.1
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	44	1,430	(96.9)	(277)	1,586	NM
税引き前利益	\$ 1,249	\$ 1,719	(27.3)	\$ 2,481	\$ 3,289	(24.6)
その他の事業、税引き前営業損失	199	198	0.5	194	78	148.7
法定責任準備金	(505)	(14)	NM	(529)	(25)	NM
訴訟和解金	-	46	NM	(12)	48	NM
債務消滅における損失	(34)	(38)	10.5	(272)	(378)	28.0
給付金積立金の変動と、正味実現利益 (損益) に関連 する DAC、VOBA、SIA	(1)	-	NM	(13)	-	NM
航空機リース	-	18	NM	17	61	(72.1)
事業売却の純利益	2,146	(47)	NM	2,150	(47)	NM
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	(120)	88	NM	(195)	133	NM
税引き前損失	1,685	251	NM	1,340	(130)	NM
税引き前営業利益関連の会社間連結・消去調整	2	26	(92.3)	37	53	(30.2)
営業外利益 (正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) を含む) 関連の会社間連結・消去調整	54	(36)	NM	96	9	NM
継続事業の税引き前利益	4,480	3,165	41.5	6,753	6,040	11.8
タックス・エクスペンス	1,474	425	246.8	2,088	1,142	82.8
継続事業の純利益	3,006	2,740	9.7	4,665	4,898	(4.8)
非継続事業の利益 (損失)、税引き後	30	18	66.7	(17)	91	NM
純利益	3,036	2,758	10.1	4,648	4,989	(6.8)
控除：非支配的持分に帰属する継続事業の純利益：	(37)	27		(34)	52	NM
AIG に帰属する純利益	\$ 3,073	\$ 2,731	12.5 %	\$ 4,682	\$ 4,937	(5.2) %

次のページの注記を参照のこと。

財務ハイライト (続き)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2014年	2013年	増減(%)	2014年	2013年	増減(%)
AIG に帰属する純利益	\$ 3,073	\$ 2,731	12.5 %	\$ 4,682	\$ 4,937	(5.2) %
AIG に帰属する税引き後営業利益の調整 (税引き後の値)						
非継続事業の(利益)損失	(30)	(18)	(66.7)	17	(91)	NM
事業売却の利益 (ILFC 売却益を含む)	(1,399)	16	NM	(1,411)	(4)	NM
不確実な税務ポジションおよびその他の税金の調整	39	64	(39.1)	11	690	(98.4)
過去の危機に関する問題についての訴訟損失引当金(和解金)	321	(257)	NM	319	(321)	NM
繰延税金資産評価引当金減算	(75)	(752)	90.0	(140)	(1,538)	90.9
生前給付債務をヘッジするための AIG ライフ・アンド・リタイアメントの満期固定証券の公正価値の変動、支払利息を除く	(35)	45	NM	(84)	64	NM
給付積立金の増減と、正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)に関連する DAC、VOBA、SIA	28	835	(96.6)	16	889	(98.2)
負債の償却損	22	25	(12.0)	177	246	(28.0)
正味実現キャピタル・(ゲイン) ロス	(111)	(1,034)	89.3	27	(1,235)	NM
AIG に帰属する税引き後営業利益	<u>\$ 1,833</u>	<u>\$ 1,655</u>	10.8	<u>\$ 3,614</u>	<u>\$ 3,637</u>	(0.6)
普通株式 1 株当たり利益 (損失) :						
基本						
継続事業の利益	\$ 2.11	\$ 1.84	14.7	\$ 3.24	\$ 3.28	(1.2)
非継続事業の利益 (損失)	<u>0.02</u>	<u>0.01</u>	100.0	<u>(0.01)</u>	<u>0.06</u>	NM
AIG に帰属する純利益	<u>\$ 2.13</u>	<u>\$ 1.85</u>	15.1	<u>\$ 3.23</u>	<u>\$ 3.34</u>	(3.3)
希薄化後						
継続事業の利益	\$ 2.08	\$ 1.83	13.7	\$ 3.20	\$ 3.27	(2.1)
非継続事業の利益 (損失)	<u>0.02</u>	<u>0.01</u>	100.0	<u>(0.01)</u>	<u>0.06</u>	NM
AIG に帰属する純利益	<u>\$ 2.10</u>	<u>\$ 1.84</u>	14.1	<u>\$ 3.19</u>	<u>\$ 3.33</u>	(4.2)
AIG の希薄化後株式に帰属する税引き後営業利益	\$ 1.25	\$ 1.12	11.6 %	\$ 2.46	\$ 2.46	-
加重平均発行済み株式数 :						
基本 :	1,442.4	1,476.5		1,450.8	1,476.5	
希薄化後 :	1,464.7	1,482.2		1,468.4	1,479.5	
普通株式 1 株当たりブック・バリュー(a)				\$ 75.71	\$ 66.02	14.7
その他の包括利益累計額を除く普通株式 1 株当たりブック・バリュー (b)				\$ 67.65	\$ 61.25	10.4 %
株主資本利益率 (c)	11.6%	11.1%		9.0%	10.0%	
その他の包括利益累計額を除く株主資本利益率(d)	12.8%	12.3%		9.8%	11.2%	
その他の包括利益累計額を除く株主資本利益率 - 税引き後営業利益 (e)	7.7%	7.4%		7.6%	8.4%	

財務ハイライト特記事項

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- AIG 株主資本合計を発行済み普通株式数で割ったものを示しています。
- その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- AIG に帰属する実際または年間の純利益 (損失) を、AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- AIG に帰属する実際または年間の純利益 (損失) を、その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- 実際または年間の税引き後営業利益を、その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。